

コラム 道路の老朽化対策に関する『研究施設見学会』の開催

高度経済成長期に集中的に整備された道路ストックの老朽化が急速に進行していることから、国土交通省では「道路メンテナンス総力戦」を掲げ、本格的なメンテナンスサイクルを始動しています。その一環として、土木研究所では、国土交通省関東地方整備局と連携し、老朽化の現状や対策について理解を深めて頂くことを目的に、将来の土木技術者を目指す学生や若手技術者を対象にした「研究施設見学会」を開催しました。

関東圏内の6つの大学から16名と関東地方整備局から12名の計26名の参加者は、国土技術政策総合研究所及び土木研究所の研究員から説明を受けながら、老朽化して架け替えた橋梁の撤去部材を集積しているヤードや輪荷重走行試験機等を見学し、最後に、見学した施設を使用して開発されたトンネルや橋梁の老朽化対策や長寿命化に活用される新技術の説明を受けました。

研究施設の見学を通じて、土木技術者をを目指す学生に社会資本ストックのメンテナンスに関する土木研究所の研究成果や開発技術の必要性を理解していただきました。



写真-1 施設見学(実大トンネル)



写真-2 施設見学(橋梁撤去部材ヤード)



写真-3 施設見学(輪荷重走行試験機)



写真-4 新技術紹介